

あきたの 地域医療通信

2018年3月 第29.30合併号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室



秋田大学地域枠1期生として、県内の医療機関（現在：大曲厚生医療センター）で勤務を続ける、設楽明宏先生にお話を伺いました。

★秋田大学地域枠とは…

平成18年度から秋田大学医学部が設けている推薦入試枠（平成30年度定員：24名）であり、将来、秋田県内の公的医療機関等の医師として地域医療に従事しようとする気概と情熱に富んだ医学生の方に対して、秋田県が修学に必要な資金を6年間貸与する制度です。卒業後9年間は県内医療機関に勤務すること（平成20年度貸与開始者からは、9年のうち4年間は知事が指定する医療機関で勤務するとの要件追加）で返還免除となります。

Q1. 医師を目指した理由は？

A. 率直に言えば父が医師だったからです。父から、「医師になれ」とか「医師が良い」などと言われたことはありませんでしたが、医師という職業が一番身近にあったこともあり、気付いたときには医師を目指していました。高校受験のときには、医学部を受験しようとしていたので、他の選択肢は頭にありませんでした。

Q2. 地域枠に応募した理由は？

A. 一番の理由は地元で働きたいということです。秋田県は、高齢化も少子化も進み、医師も少ない地域なので、医師になるのであれば少しでも地元で貢献したいと考えていました。父が地元で開業していたので、両親がいるところで働きたいと漠然と考えていました。また、都会の環境があまり得意ではないので県外へ行くという事は考えていませんでした。

Q3. 産婦人科医になった理由は？

A. 父が産婦人科医だったことが大きな要因で、父を見ているうちに産婦人科を目指すようになりました。その後、大学で学ぶうちに、私は外科的なこともやりたいと思うようになったのですが、産婦人科はそれが出来る場所でした。また、産婦人科は自分たちの科で完結しなければならないことが多く、例えば、お産は他の科は関わらずに自分たちで全て診なければなりません。他の科では、外科的処置はこの科で、内科的処置はこの科でといった細かいやり取りがありますが、産婦人科は患者さんが妊婦であれば全て対応する科ということで、分かりやすく自分の責任も明確です。そのように専門性に特化しているところも魅力でした。実際に赤ちゃんが生まれて母親が喜んでいるところは、何度見ても産婦人科医に

なって良かったと実感するところです。

初期研修中は様々な科を経験するので、他の科へ気持ちが揺らぐこともありましたが、学生時代から志望していたこともあり、産婦人科の先生方には大変良くしてもらい、たくさんお世話をしていただきました。人との繋がりは非常に大切ですので、今までお世話になった分を返していかなければならないとも思いました。

Q4. 地方で勤務をして感じることは？

A. 初期研修中に東京医科歯科大学医学部附属病院で研修もしましたが、都会は医師の数が多く、常に上級医がいて同期もたくさんいるため、働きやすい環境であるとは感じました。

都会には都会のやり方があり、地方には地方のやり方があるということも見てきましたが、だからといって都



大曲厚生医療センター 産婦人科 設楽 明宏 先生

秋田県秋田市出身。秋田大学で初期研修修了後、由利組合総合病院、市立秋田総合病院での勤務を経て、当院へ赴任。平成29年度に産婦人科専門医取得。

会でやっていることが全てではないと感じました。そのあたりを上手く選択しながら勤務していければ良いと思います。

秋田県内でも、秋田市内の病院では何かあれば大学病院や赤十字病院に行くことが出来ますが、市外の病院ではそうはいきません。地方の病院で診察する際は、予め相談したりと事前のマネジメントが重要です。また、近医からも頼られる存在となるので、当院で対応しなければならないことも数多くあります。地方には地方の役割があると明確に感じました。

また、大学は、産科、婦人科、腫瘍、不妊症などと専門が分かれています。地方病院では全て診なければならぬので医師としての経験の幅が大きくなり、今後のスキルアップにつながると感じています。

Q5. 今後の目標は？

A. 今年度、産婦人科専門医を取得したばかりですが、幅広く一般的な診療を全て出来るようになることが第



一目標ですので、地方で勤務することで得られた幅広い経験をスキルアップにつなげていきたいと思っています。それにプラスして、追々専門分野に強くなっていければ良いと考えています。専門分野がしっかりしていることは、医師としての武器になるので、専門分野を持ちながら幅広く診療に対応出来る医師を目指しています。現在は大学院生なので、いずれ大学に戻ることになると思いますが、その時まで専門分野を決めて勉強していきたいと思っています。

Q6. 地域枠の医学生・研修医・若手医師へのメッセージをお願いします。

A. 動機はどうであれ、地域枠に入ったのであれば、最終的に秋田のためになるように働いて欲しいです。学生は、まず医師になることを目標としてください。医師になったら、そこからまた新しいスタートです。自分がどのように秋田に貢献できるかを考えて欲しいと思います。私自身が秋田に貢献していると強くは言えませんが、私が秋田に残ることで1人の医師が増えていることになりまますから、何かしらは秋田のためになっていると思っています。

やはり、若い医師が次の若い医師を呼び込むことになると思います。研修医が大勢いる病院には研修医が集まり、後期研修医が大勢いる病院は研修医には魅力的に見えます。若い人の力は医療だけではなく、人を集めるという意味でも重要になりますので、秋田に残ると強い意志を持って欲しいと思います。そして、出来れば9年後も働き続けて欲しいと思います。

修学・研修資金のお知らせ

秋田県では、将来、県内の公的医療機関等において医師として地域医療に従事しようとする医学生、大学院生及び研修医に対し、修学資金・研修資金を貸与しています。

平成30年度の募集については、医師確保対策室あてお問い合わせください。

項目/区分	医学生修学資金【市町村振興枠】	大学院生修学資金	研修医研修資金
貸与対象者	医学生 ※公立私立、学年、出身地は問わず	大学院生 ※公立私立、学年、出身地は問わず	臨床研修医又は専門研修医
貸与額	・月額15万円(自宅通学者は10万円) ・入学金相当額(1年生に限る)	・月額30万円 ・入学金相当額(1年生に限る)	月額20万円
貸与期間	大学卒業まで (最長6年間)	大学院修了まで (最長4年間)	研修修了まで (臨床研修は最長2年間、専門研修は最長3年間)
返還免除要件【勤務先】	・大学卒業後、1年6ヶ月以内に医師免許を取得し、その後直ちに、県内の公的医療機関等に勤務 ・返還免除要件となる勤務期間のうちの半分を、知事が指定する公的医療機関等で勤務 ・知事指定勤務先は、自治体病院・診療所が優先(ただし診療所の勤務にあつては1年を限度とする)	大学院又は研修修了後、直ちに知事が指定する公的医療機関等に勤務	
返還免除要件【診療科】	限定なし	知事が別に定める診療科(産婦人科、小児科、麻酔科、精神科、外科、循環器内科、消化器内科) 【専門研修医のみ上記診療科及び総合診療科】	
返還免除要件【勤務期間】	貸与期間の1.5倍の期間	貸与期間と同じ期間	

秋田大学医局紹介①

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 腫瘍制御医学系 消化器内科学・神経内科学講座

当教室は消化器内科と神経内科を標榜しております。消化器内科、神経内科は、内科のなかでも患者数が多く、一般診療のなかで重要な位置を占めています。特に、秋田県は、胃癌、大腸癌、食道癌、膵臓癌などの消化器系の癌の死亡率が全国ワーストレベルであり、この対策のために消化器内科医の果たすべき役割は非常に大きいと思います。また、人口の高齢化率が、全国一のレベルで推移している秋田県では、日本の医療のモデルケースにもなり得る地域です。今後、高齢者の神経疾患の増加が見込まれ、神経内科医の役割も重要になってくると考えられます。

消化器内科の診療は、胃癌、食道癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、胆道癌などの悪性腫瘍が中心となっておりますが、今後は、これらに加えて、胃・食道逆流症、炎症性腸疾患、便秘症、脂肪肝などの良性疾患、機能性疾患の診療にも力を入れていきます。消化器内科では、内視鏡、超音波を用いた検査、治療が重要です。内視鏡・超音波を用いた治療では、患者様の負担をできるだけ少なくしつつ、かつ、十分な治療効果が得られるように、常に新しい技術を導入し、秋田にいてもハイレベルな医療を受けられる環境を維

持していきます。年一回、ハンズオンESDセミナーも開催しております。興味を持たれた方はぜひ気軽に下記までお問い合わせください。

秋田県ではまだまだ神経内科医が不足しています。神経内科専門医は秋田県内に35人しかおりません。その7割が秋田市内に集中しているのが現状です。今後高齢化が進む秋田県ではさらに神経内科医の需要が増加すると予想されます。神経難病患者さんの療養についても、専門医が少ない現状では、まだまだ行き届いていない状況です。



問い合わせ先

秋田大学大学院消化器内科学・神経内科学講座

医局長 松橋 保

E-mail : tamotsu@doc.med.akita-u.ac.jp

TEL : 018-884-6104

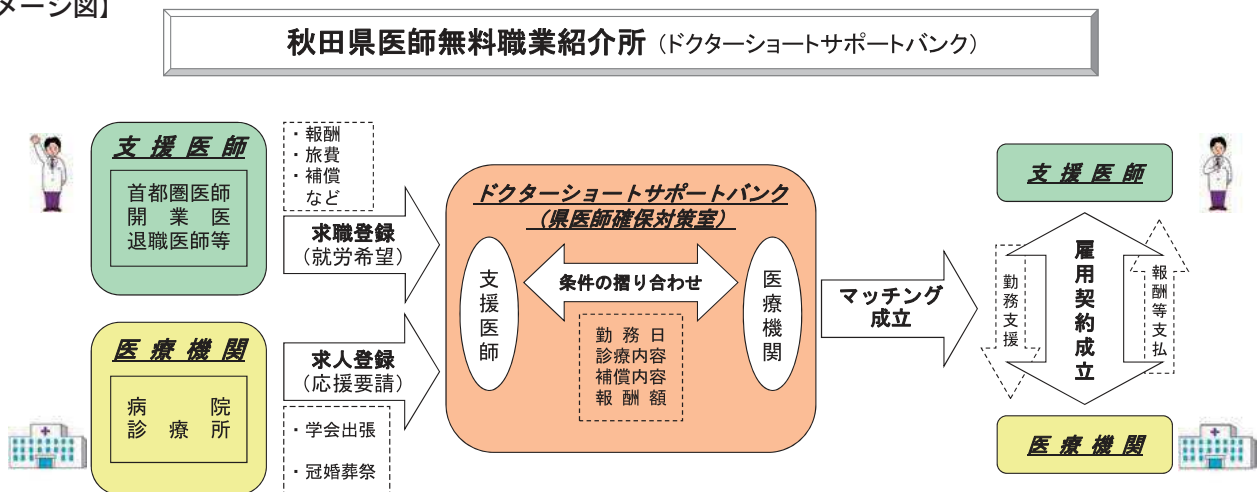
HP : <http://www.med.akita-u.ac.jp/~naika1/>

ドクターショートサポートバンク

県内医療機関での1日単位の勤務を希望される方に、就職先を斡旋・紹介します。

求職登録された医師の方々には、求人登録をしている病院又は診療所に関する情報の提供、面接の際の病院への同行など、雇用契約に至るまでの間、できる限りのお世話をさせていただきます。条件が折り合わない場合でも、引き続きご希望に合った病院又は診療所を紹介します。現役医師のみならず、定年や育児等で臨床を離れていた方も含め、地域医療に関心のある方を広く募集します。もちろん、常勤を希望される方も歓迎します。

【イメージ図】



お問合せ 秋田県健康福祉部医務薬事課医師確保対策室

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

TEL : 018-860-1410 FAX : 018-860-3883 E-mail : ishikakuho@pref.akita.lg.jp

秋田大学医局紹介②

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 機能展開医学系 小児科学講座

【概要】当講座は高橋 勉教授を中心に19名（専門医16名、指導医10名）で構成されています。「小児疾患の総合医療」を目指し、新生児、総合（神経、内分泌、消化器、代謝、腎）、循環器、血液・腫瘍の4グループで診療を行っています。さらに外科疾患も含め、診療科を越えて治療に関して協力して取り組んでいます。施設内の小児医療連携にとどまらず、私達は県内小児医療の中核としての役割を果たすべく、計23の施設との連携を円滑にすることで、県内各地で暮らしている小児全てが高度な医療を受けることができる体制を構築しています。

【患児と家族のサポート】当施設では長期入院が必要となる疾患を持つ小児が多いため、心の健康を重視しています。このため健全な心の発達を促す目的で臨床心理士2名と保育士2名が活動しています。小中学の院内学級もあり、お子さんと保護者への精神的負担を最小限にしつつ治療に専念できる環境を提供しています。

【若手医師と医学生のサポート】私達は、医局の役割は医師の成長とキャリア形成のサポートであると考え、日々の活動を通じて、小児科医を目指す若手医師や医学生に小児医療や小児医学研究の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。小児医療の習得は本学のみでなされるものではありません。当医局の出身者が指導的立場で小児医

療に従事する連携施設でも経験を積み、小児科専門医を取得して頂きたいと思っています。

【女性医師のサポート】当医局と連携施設では、女性医師が生涯を通じて充実して働くことができる環境を整備しています。医局創設初期より女性医師が活動し続けてきた伝統があり、個々の状況に応じた職務形態をとることができます。

【最後に】小児科医としての醍醐味を皆さんに伝えたいと思っています。興味を持たれた方はお気軽に声を掛けてください。



問い合わせ先

秋田大学大学院医学系研究科 小児科学講座

医局長 豊野 学朋

E-mail : pediatr@med.akita-u.ac.jp

TEL : 018-884-6159

HP : <http://www.med.akita-u.ac.jp/~syouni/index.html>

レジデントスキルアップキャンプ2017を開催しました！

秋田県の1年目初期研修医が一同に集まる研修会、「レジデントスキルアップキャンプ」が11月10日(金)～11日(土)に開催され、75名の研修医が参加しました。定番となっているサーキットトレーニングでは、各病院のTFの先生方から各分野における救急での極意を指導していただきました。研修医からも「それぞれ教訓を得られる症例を楽しく学ぶことができた」と大変好評でした。

トレーニング後の懇親会では、各病院からの出し物があり、非常に盛り上がりました。



秋田県臨床研修病院合同説明会を開催しました！

秋田県内すべての臨床研修病院に加え、青森県と岩手県の臨床研修病院が参加する「秋田県臨床研修病院合同説明会」を2月2日(金)に秋田駅前の秋田拠点センターアルヴェで開催しました。会場へは、100名以上の秋田大学医学部生が訪れ、各病院の指導医や研修医から、プログラムの特徴や研修生活などについて、熱心に聞いていました。

説明会終了後は、各病院が懇親会を企画し、散り散りに夜の街並みに消えて行きましたので、お酒を交えながら、より深く交流を深めたことと思います。



指導医メッセージ



秋田厚生医療センター
小児外科

畑澤 千秋 先生



ずいぶん前になりましたが、私にも研修時代がありました。

卒後1年目は大学病院での研修で、その時の指導は「余計なことを考えず、ただただずっと患者の傍にいて離れるな」というものでした。主体性は与えられず早朝から深夜まで土日も病院に張り付いていなければならなかった

日常は辛く、現在の大人教育、働き方改革、ワーク・ライフ・バランスなどとは無縁のものでした。しかしそのことは結果として疾病や治療、患者・家族を不幸までつぶさに見つめる機会となりました。

2年目は他県の専門病院で研修しましたが、入院患者の診療は大部分がレジデントに委ねられており、かなりの裁量を与えられていました。そのかわり毎日のカンファレンスで指導医から「お前はなぜそう考えるのか」「なぜそのような診療を行なったのか」を繰り返し繰り返し問われ、論理的に説明することが求められました。ここではすべての診療を論理的妥当性に基づいて行なう姿勢を学ぶこととなりました。

両方の経験は、その後の医師人生のバック・ボーンとなりました。

秋田赤十字病院
神経内科

原 賢寿 先生



山形県酒田市に生まれ育ち、その後新潟で20年を過ごした後、訳あって秋田に来て9年が経ちました。日本海側でしか生きてこなかった人生ですが、秋田は自然、食、住居、教育などについては非常にバランスのいい県だという印象があります。

東北地方の医師不足が叫ばれて久しいですが、都会の生活が必ずしも優れた医師を養成する環境とは言えない部分も多々あります。需要と供給のバランスが崩れた結果、患者の奪い合いが発生したり、極端に守備範囲が狭く、自分の興味ある分野しか診ない医師が量産されているのは問題です。人は群れると逆に無力化し、孤立したときに個人の威力が発揮されることがあります。神経内科医の少ない県だからこそ、その仕事に大きなやりがいを実感させられる点が、自分がここに居る理由なのかもしれません。自分を本当に必要としている場を選ぶこと、そして情熱のある優れた指導医に出会うことが幸せな医師人生を歩むコツです。その両者において秋田県は申し分ないと思います。

レジデントスキルアップキャンプ2017を開催しました!

県では、県内で研修している初期研修医等のネットワークを活用して、臨床研修病院と連携し、医学生を対象とした少人数制のグループ進路相談会を全国各地で開催しています。

今年度は福島、東京、金沢、岡山、熊本の5カ所で開催しましたが、病院合同説明会やレジナビフェア等とは違い、指導医や研修医の先生方とじっくり気軽な雰囲気でお話できる場となっています。相談会のあとは、居酒屋などで交流会もありますので、お酒を交えながらより深く秋田の研修について知ることができます。



岡山進路相談会の様子 (H29.12)

秋田県職員医師を募集しています。

秋田県内の自治体病院等で診療に従事していただける医師を県職員として採用します。

勤務期間は
4年間で1単位

- ◎3年間は県内の自治体病院等に勤務
- ◎残りの1年間は希望する医療・研修施設において、有給の研修・研究が可能

ご連絡いただければ、
直ちに資料を
お送りします

お問い合わせ | 秋田県健康福祉部医務薬事課医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号
TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883 E-mail:ishikakuho@pref.akita.lg.jp

能代厚生医療センター

小笠原 啓太 先生
(岩手医科大学・岩手県出身)



初期研修を開始し、もうすぐ一年が経ちますが、能代の地にて非常に充実した日々を過ごしています。

当院に興味を持つきっかけとなったのは、少人数制の研修を採用している点でした。見学時には先生方を始め職場の雰囲気が非常に良く、最終的にはこれが研修病院の選択における決定打となりました。

実際に研修をスタートしてから感じた当院の特筆すべき点は、救急外来で診る疾患の多様性です。あらゆる患者への初期対応が必要となるため、経験と勉強量とともに扱える手札が増えていくことが実感でき、自ら進んで知識や手技を身に着けたくなる環境です。また上級医に相談できる体制は常に整っているため、ほどよい緊張感の中で業務に励んでいます。

この場で当院の素晴らしさのすべてはお伝えできませんが、魅力溢れる病院であると自信を持ってお勧めできます。学生の皆様方の見学をぜひともお待ちしております。

本荘第一病院

小暮 悠介 先生
(秋田大学・群馬県出身)



私は群馬県の前橋高校卒で、初めて秋田の地に立ったのは大学入試後期試験前日、3.11の震災が起きたその日でした。当時は縁もゆかりもないこの雪国に、まさかこの年まで居座ろうとは思いませんでしたが、気の合う同期や先輩・後輩に囲まれて思った以上に楽しく、この縁を大事にしたいと秋田で研修を始めました。

当院は研修病院としては病床数が少ない方ですが、そ

の分最前線で経験を積む機会も多く、また全国の著名な先生をお招きして勉強会を開くなど、多くの研鑽の機会が与えられています。また研修協力病院も豊富で自分の希望に沿った柔軟なプログラムを組めます。さらに昭和・慈恵医大の地域医療枠で毎月来る研修医や、パラグアイ国立がんセンターなどとの交流ができるのも他院にはない魅力の一つです。

院外活動も活発で、キャンドルナイトという行事でバンド演奏をするなど、温かい雰囲気の中で充実した研修生活を送れています。ここには書き切ることができませんので、研修先に迷っている学生に一言。小さい病院だからこそその良さがあります！とにかくまず見学へ！絶対後悔させません！



横手興生病院

〒013-0016 秋田県横手市根岸町8-21 TEL:0182-32-2071 HP: <http://www.kohseikai.com/>

【地域移行機能強化病棟の推進】

平成16年9月「精神保健医療福祉の改革ビジョン」により「入院医療中心から地域生活中心へ」の改革が進められています。この流れに沿って、当院では平成28年4月1日、地域移行機能強化病棟を開設致しました。

当病棟では、精神保健福祉士や作業療法士を重点的に配置し、日常生活に必要な能力を習得する訓練や外出等、地域生活を念頭においたプログラムを実施しながら、退院促進を図っております。

開設から平成30年2月現在までの間に25人が退院されています。これは平成30年6月までの退院実績となり、今後も地域移行機能強化病棟を継続していくことが見込まれております。

【認知症疾患医療センターの開設】

平成30年2月1日より、認知症疾患医療センターを開設致しました。

もの忘れ相談から、検査や専門医の診察による詳しい診断と治療を行います。また、認知症に関する様々な支援をする役割を担い、地域に根付いた活動も行っており、参りたいと考えております。



… お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号
Tel.018-860-1410 Fax.018-860-3883 E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp